

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。			
細事業別目標【展覧会】	各職員の専門性を活かして研究や企画力を充実させていく。広報や展示を通して丁寧な伝え方の工夫を行う。			
展覧会名称	廣瀬智央 地球はレモンのように青い	糸の記憶 アーツ前橋所蔵作品から	聴くー共鳴する世界	場所の記憶 想起する力
会期・日数	2020/6/1-2020/7/26 /48	2020/6/1-2020/10/13 /116	2020/12/12-2021/3/21 /79	2020/10/22-2021/3/21 /124
場所	地下ギャラリー	ギャラリー1、地下ギャラリー	地下ギャラリー	ギャラリー1、地下ギャラリー
学芸担当者	五十嵐	辻、今井	住友、北澤、五十嵐	住友、今井、井上
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・助成：公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団 ・協賛：株式会社資生堂、株式会社原田・ガトーフェスタハラダ		・助成：花王芸術科学財団、財団法人國家文化芸術基金會（台湾） ・後援：オーストラリア大使館 ・協力：前橋シネマハウス、東風	
最終修正日	2020/12/11	2020/12/11	2021/3/19	2021/3/19
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	開館以前にスタートしたコミッションワーク《空のプロジェクト》から、現在継続中の表現の森事業に関わりのあるアーティストである廣瀬智央の個展を開催する。約20年ぶりの個展となり、活動初期からの作品を紹介すると同時に、協働や視覚以外の五感に訴えかけるといった廣瀬の通底する制作態度を紹介する。 ターゲット：関東近県、美術愛好者 1.アーツとも協働の多い廣瀬氏の活動を俯瞰し、より深い理解を目指す。 2.五感を使う体験で、より広い年齢層が楽しむことができる展示を目指す。 3.企業協賛の獲得	アーツ前橋の所蔵品を中心に、地域ゆかりの作家や作品を紹介する。開館以来、継続している作品の収蔵によりコレクションがより魅力的なものになっていることを知ってもらおう。 ターゲット：近隣住民、市外の美術愛好者 1.コレクションへの理解が深まる 2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着	地域アートプロジェクトなどで実施してきた地域との対話において、聴くことの実践にどのような創造性があるのかをテーマに、「場所の記憶」展との連動する企画とする。 コロナ感染対策として規模の変更やインターネットの活用を踏まえた実施内容にする。 ターゲット：全国的美術愛好家、街づくり/福祉などに従事する人たち、前橋市民、近隣住民 1.「聴く」ことを起点に制作された芸術作品の理解が深まる。 2.コロナ禍における安全な環境、安心な方法による美術鑑賞の試み。 3.アーツ前橋の活動への理解が深まる。	アーツ前橋の位置する「場所」から始まり、地域アートプロジェクトを通じて生まれた作品やあのご資料館が所蔵していた資料などを通じて、前橋空襲など歴史的な時間の流れのなかで改めて芸術の役割を見直す。 ターゲット：近隣住民、市外の美術愛好者 1.コレクションへの理解が深まる 2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着
【①投入】 成立予算	11,533千円(R1) 2,132(H31)	1,199千円	14,958千円	2,478千円
【②内容・活動】 事業の概要	1990年代初頭から活動を続け、海外での発表も多い廣瀬智央の約20年ぶりの大規模個展。新作に加え、大作である代表作を複数点展示し、現在の視点から廣瀬の活動を紹介します。	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。	震災、難民、コロナ禍などを題材として、聴く行為を通して世界と関わることを実践している作品に加えて、当館のイベントや地域APで制作した作品を紹介する。	アーツ前橋の収蔵作品だけでなく、あのご歴史資料館や県内のコレクターの豊かな作品群を紹介する。
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	1.企業協賛の獲得 2.大学との協働 3.作品素材の再利用、展覧会後の展開	1.新収蔵作品の公開 2.作家研究に基づいた展示構成。 3.鑑賞補助資料の作成(キャプションなど)	1.図録の役割を果たし展示作品の一部を鑑賞できる特設サイトの設置 2.ヘッドフォンやQRコードなどを用いた鑑賞による非接触対応の工夫 3.地域AP作品展示の街なかへの展開	1.収蔵作品を新たなテーマ軸から作品を考える 2.同時開催の「聴く」展との関連のなかで県内の個人コレクションを見せる
【数値目標】 入場・参加者数	5,000人	6,000人	5,000人	4,000人
【人数及び達成率】	6,448人   129%	8,179人   136%	1,959人	3,847人   %
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)	・コロナの影響のあり、会期が短縮される中で6448人の入場となり、1日当たりの有料入場者数では過去2番目に多い結果となった。 ・一面に広げたレモンの作品の写真映えは想定できたがそのほかの作品(新作など)のSNS投稿も多く、美術ファンだけではなく層の反応が大きくあった。SNSの投稿を見ることで、普段アンケートに反映されない声を聴くことができた。	・コロナの影響により当初予定していたよりも規模を広げての開催となった。 ・滞在制作を通じて生まれたケレン・ペンベニスティの「生糸」をテーマにした映像作品やアーツ前橋のユニフォームについての展示を行うなど、作品のみならずアーツ前橋のそのほかの活動を関連付けて展示を作ることができた。 ・学芸員によるギャラリーツアーを行うかわりに動画による解説を配信することで作品理解を促す試みも行った。		
特記事項	2020年4月10日～6月14日の会期であったが、新型コロナウイルスの影響により、6月1日～7月26日へと変更		緊急事態宣言(2021/1/8～) 群馬県独自が休ライン前橋市域警戒度3(2020/11/27～、2021/3/9～) 警戒度4(2020/12/19～2021/3/8) 時短要請期間(2021/1/7～2/22)	緊急事態宣言(2021/1/8～) 群馬県独自が休ライン前橋市域警戒度3(2020/11/27～、2021/3/9～) 警戒度4(2020/12/19～2021/3/8) 時短要請期間(2021/1/7～2/22)

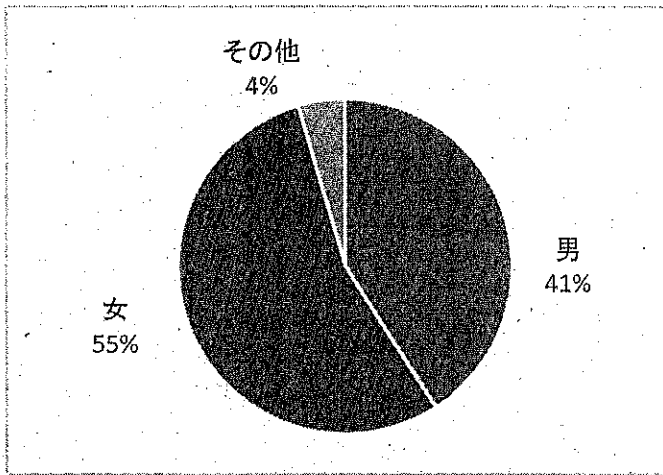
# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書

基本事項	事業名	聴く— 共鳴する世界											
	会期	2020/12/12～ 2021/3/21 /79							開館日数	79 日間			
	会場(ギャラリー)	地下ギャラリー(G4、5、6、ホワイエ)							実施方式	01自主企画・単独方式			
	観覧料	一般	500円					出品点数	20点				
		割引	300円										
	担当者	学芸:住友文彦、北澤ひろみ、五十嵐純 事務:小屋綾子、塚大輔											
	目的(一覧表)	地域アートプロジェクトなどで実施してきた地域との対話において、「聴く」ことの実践にどのような創造性があるのかをテーマに、「場所の記憶」展とも連動する企画とする。コロナ感染対策として規模の変更やインターネットの活用を踏まえた実施内容にする。											
	キーワード	聴く、フィールドレコーディング、環境音、コミュニティ、難民、移民、多文化、震災、コロナ禍											
	他団体との連携(共催、協力等)	助成:公益財団法人 花王芸術・科学財団、財団法人 國家文化芸術基金會(台湾)											
		協力:前橋シネマハウス、東風 後援:オーストラリア大使館、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA、まえばしCITYエフエム、前橋商工会議所											
参加作家	野村誠	小森はるか+瀬尾夏美			ワン・ホンカイ	恩田晃							
	アンジェリカ・メシティ	スン・テウ			上映プログラム:奥村雄樹、想田和弘、坂上香								
関連イベント	12/12, 12/26, 1/30, 3/20 上映プログラム												
	1/23 ギャラリーツアー(館長)												
	12/19, 2/6 ギャラリーツアー(担当学芸員)												
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録						
		2,000部			5,500部		オンライン版						
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
						観覧料	助成金	他					
		予算	2,000,000円	14,958,400円	13.4%	2,992円							
		決算見込	1,518,800円	14,860,220円	10.2%	7,593円	518,800	1,000,000円					
	差額	-481,200円	-98,180円		-								
予算/決算	75.9%	99.3%											
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要(転記)	震災、難民、コロナ禍などを題材として、聴く行為を通して世界と関わることを実践している作品に加えて、当館のイベントや地域APで制作した作品を紹介する。										
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 メディア等広報実績 新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	・広報戦略 ・新たな試み(転記)	1.図録の役割を果たし展示作品の一部を鑑賞できる特設サイトの設置 2.ヘッドフォンやQRコードなどを用いた鑑賞による非接触対応の工夫 3.地域AP作品展示の街なかへの展開										
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・新聞:読売、毎日、産経、東京などの主要紙、地元紙—上毛、朝日ぐんまで紹介記事。 ・web: JDN、FASHION PRESS、Tokyo Walker、artscape Japan(英文)などでの長文レビュー記事(英文)。 ・ラジオ:FMGUNMAで作家、館長インタビューを収録し放送。										
		新たな試みの実績	・特設サイト—コロナ禍で来場できない観客へ展覧会を発信する手段として展示作品の一部をオンラインで鑑賞可能とし、オンライン図録の役割を果たし高評価を得た。 ・テーマを体現する聴覚に訴えかける作品が多く、QRコードを観客持参のスマホで読みヘッドフォン、イヤフォンで鑑賞する非接触対応が観客に安心感を与え、音の被りも避けることができた。 ・スマホを持っていない、操作に不慣れな観客にはMP3プレイヤーで鑑賞できる対応を取った。										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	65才以上	学生	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	909	66	152		134	301	240				155	1,957	25
	有料観覧者率 69.9%	46%	3%	8%	0%	7%	15%	12%	0%	0%	8%		
一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項								
	入場・参加者数	5,000人	1,957人	39.1%	当初は1Fギャラリーで無料実施を想定								
	展覧会満足度	80%	%	-80.0pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)								

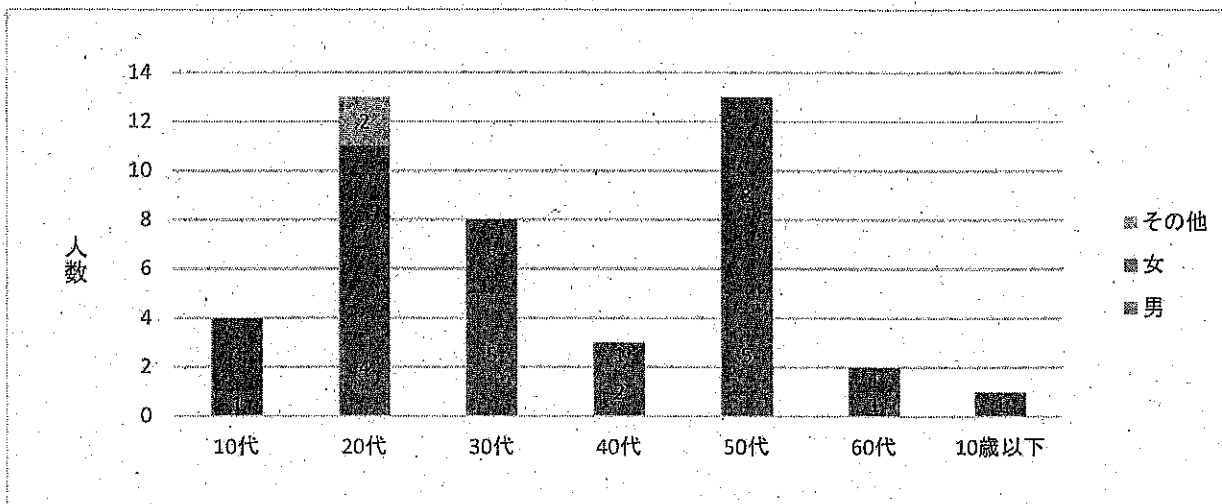
# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調査書

③ 結果	事業名	聴くー 共鳴する世界			
	進捗管理 [スケジュール観]	㊦概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項( )			
④ 成果	④成果 一覧表の「目標」に対する結果 観覧者層のターゲット ねらい	観覧者層のターゲット(転)	全国の美術愛好家、街づくり/福祉などに従事する人たち、前橋市民、近隣住民		
		成果	テーマに興味を持ち、遠方から足を運んだ美術愛好家、美術関係者などが見られ、前橋市や近隣からは、スマートフォンやQRコードといった日常生活で慣れ親しんでいるメディアを用いた鑑賞方法に興味を持つ、学生を含む若い世代の来場者が多く見られた。また東日本大震災を経験した方々や、近隣で留学生と接点を持っている来場者やギャラリートツアー参加者からは強く共感を覚える作品があったとの感想があった。		
		ねらい1 (転記)	1.聴く態度を重視した内容、聴くという鑑賞方法の芸術作品への理解を深める		
		成果	「聴く」というテーマが、サウンドアートなどと異なり、人々が語ること、歌にのせて伝えようとしていること、日常の環境音から読み取ろうとすることなど、世の中に起こっていることに耳を傾け、世界とつながりを持つという態度であるということを多彩な表現による作品によって、展覧会として打ち出すことができた		
		ねらい2 (転記)	2.コロナ禍における安全な環境、安心な方法による美術鑑賞の試み		
		成果	来館時の検温やシート記入、展示室内の人数制限、定期的な消毒や換気などを徹底していることをウェブサイトや館内での掲示などで分かり易く示すことで、不特定多数の人々が利用する施設において、安全な環境を保ち、安心な方法を用いて展覧会を鑑賞できることを経験的に感じ取っていた観客が多か見られた。		
ねらい3 (転記)	3.アーツ前橋の活動への理解が深まる				
成果	多文化共生や震災をなど、これまで継続的にアーツ前橋が取り上げてきたテーマの延長線上にある作品が数多く出品されたこと、開館前のイベントのワークショップから制作された作品や、滞在制作でのリサーチを作品化したものなどこれまでの活動の成果として発表された作品によって館の活動への理解が深まった。				
⑤ 波及効果	個別評価	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 7. 小森はるか・瀬尾夏美、ワン・ホンカイ、恩田晃はこれまでの調査、制作活動の現時点での発表として作品化、出品しており、本展が今後も継続されていく同対象、同テーマについての活動のひとつの重要な通過点となった。小森・瀬尾は同時期に水戸芸術館現代美術センターでのグループ展にも出品しており、観客の来場の動機や広報などにおいて、両展の相乗効果が見られた。(20210311) 2. 継続的に取り上げてきたテーマに沿った出品作品に加え、イベント、滞在制作などの事業による出品作品などによって、観客、関係者がこれまでの事業と展覧会との関連を見出すことができた。(20210311) 3. 滞在制作の成果作品を街なか展示することで展覧会場を拡張し、店舗や飲食店など地域の協力を得て今後のさらなる交流、関係性の構築に向けての一步となった。(20210311) 4. 美術展が視覚のみで鑑賞するものに限らず、聴覚など視覚以外の感覚によっても鑑賞が可能であることを示し、今後の鑑賞体験の幅を広げる波及効果がある。(20210311) 6. コロナ禍でリモートでの出品作品一部を鑑賞可能とし、出品作家、作品を紹介する特設サイトによって、16カ国以上の国からのアクセスがあり、結果的に通常の展覧会よりも世界各地へ幅広い発信をすることができた。(20210311)			
	※記入日を( )内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正				
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	・会期の延期による開催は予定外ではあったが、プレビューなどでの事前の掲載された記事等が少なく、展覧会について周知されるまでに時間がかかってしまった。 ・不測の事態下において、新たに制作された作品が多かったため、直前まで出品作品の詳細が分からないものが多かった。 ・スマートフォン、プレイヤー、ヘッドフォン、イヤフォンなど持ち歩くもの、操作するものが多く、また作品の説明を捕捉するうえで必要なハンドアウトも多く、会場を移動しながら鑑賞がし難かった。 ・特設サイトの立ち上げは会期前に行えたが、充実した内容への更新に時間がかかってしまい、特設サイトの内容への評価は高いこともあり、もう少し早く進行し、広報できることが望ましかった。			
引継ぎ事項 (特記事項)	・作品写真や動画、テキストを多数掲載することで、図録の役割を果たし、展示作品の一部を鑑賞できるように設置した特設サイトは、会期終了後も一定期間は閲覧できるよう残り、コロナの影響で来館できなかった方々や海外からの閲覧の機会の提供を継続する。 ・ヘッドフォンやQRコードなどを用いた鑑賞による非接触対応によって、新たな鑑賞体験を提供し、コロナ禍での安全安全な鑑賞を実践できたので、この機会に来館者用に購入して使い捨てイヤフォンなどを今後の展覧会においても活用できるよう、使用方法についての改善点なども含めて引き継いでいく。				
コメント・意見	館長 副館長	規模の変更やコロナ対策対応は、今後も必要になる可能性があるのでは活かしてほしい。收藏につながった作品は、「聴くこと」以外の視点でも、各作品が扱うテーマを今後新しい視点で展示してほしい。			
	運営 評議会				

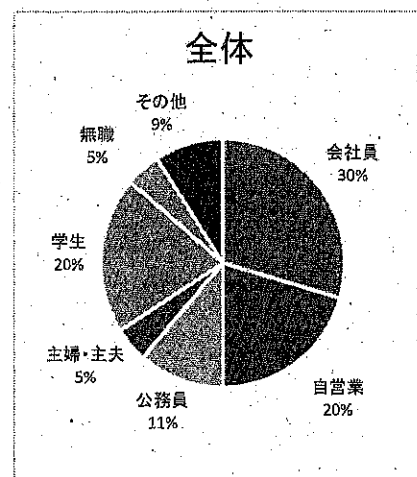
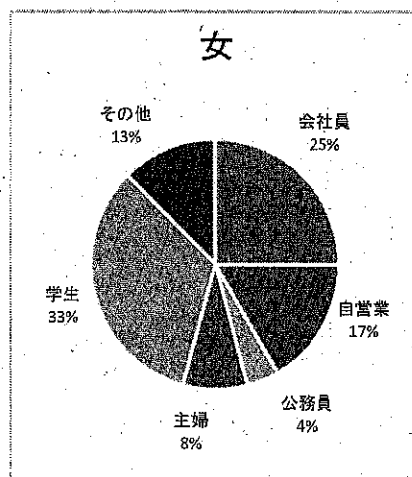
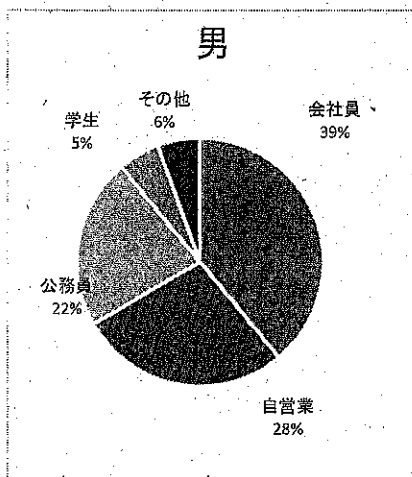
①アンケート回答数(44人・・・男18・女24・他2)



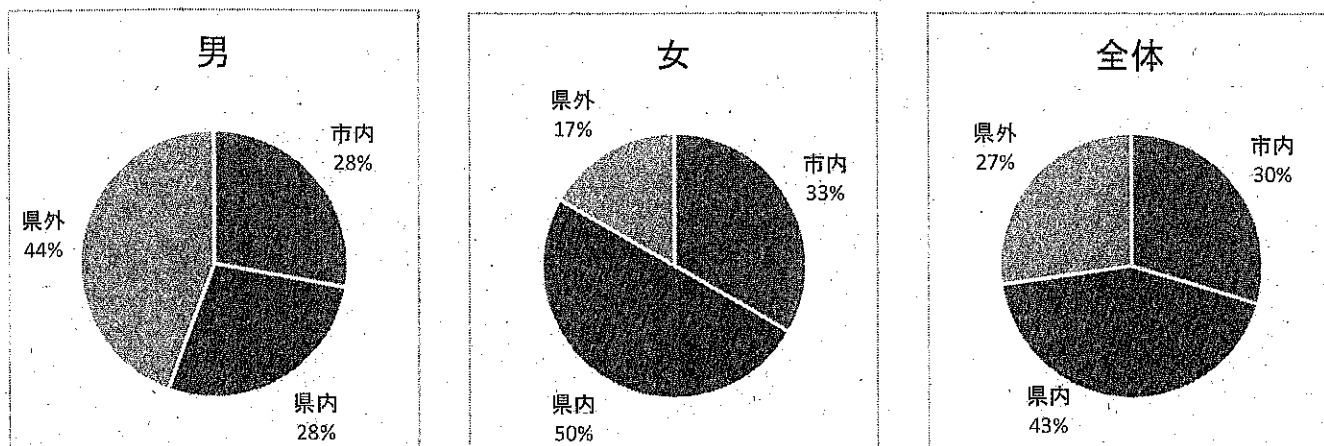
②年代



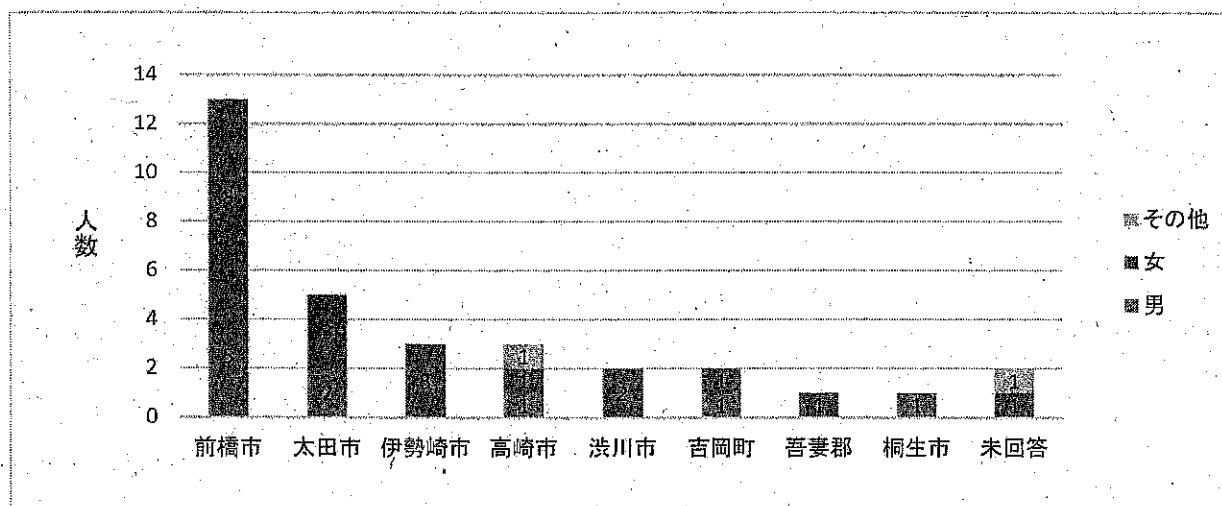
③職業



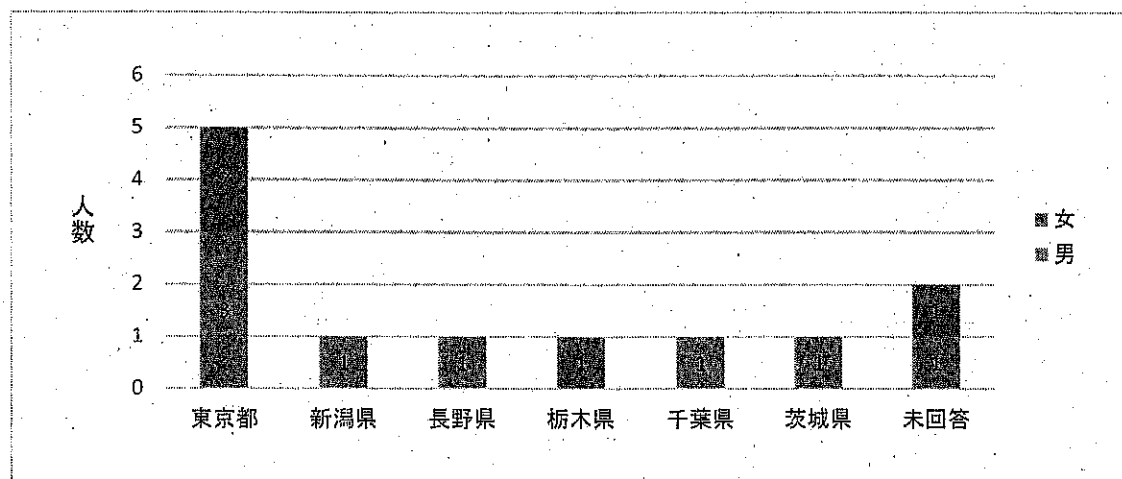
④-1住まい



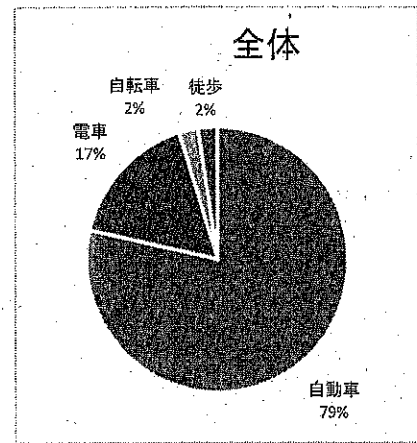
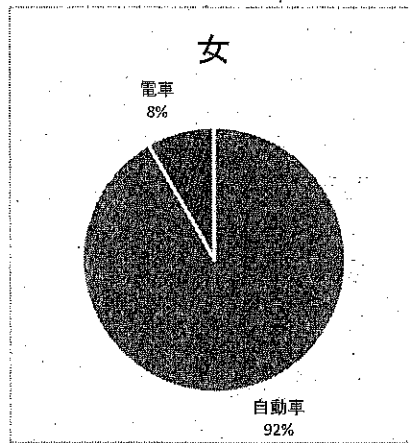
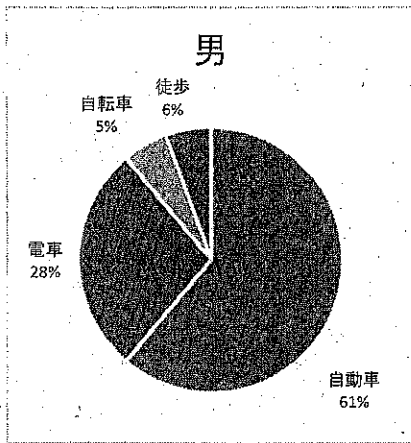
④-2住まい(群馬県内)



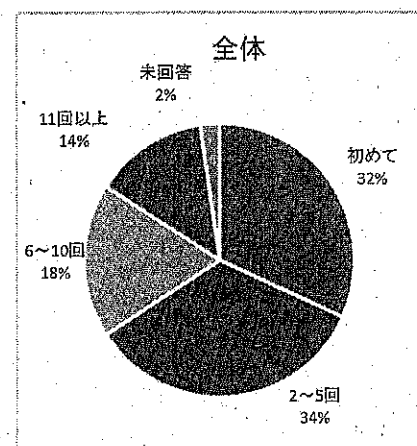
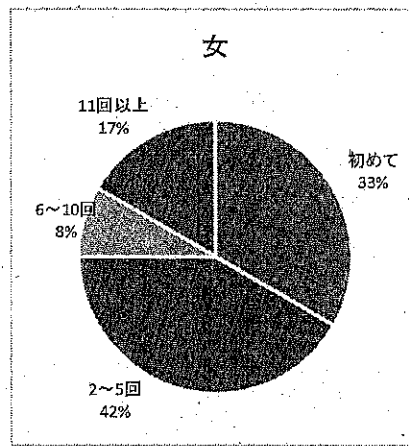
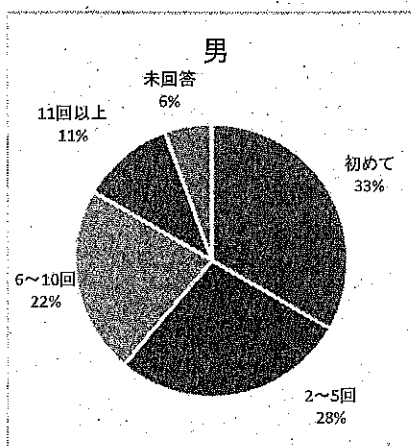
④-2住まい(群馬県外)



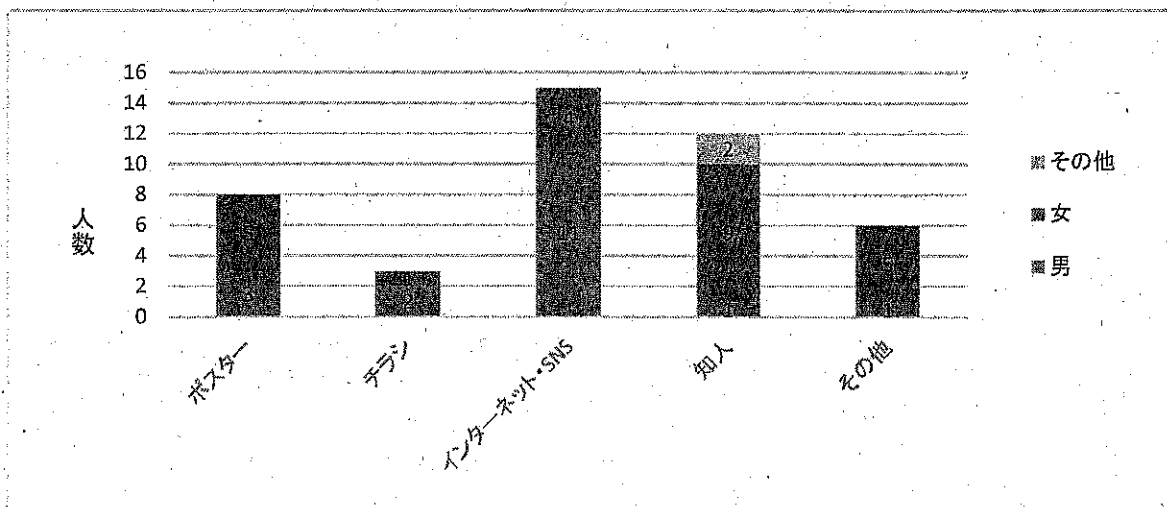
⑤交通手段



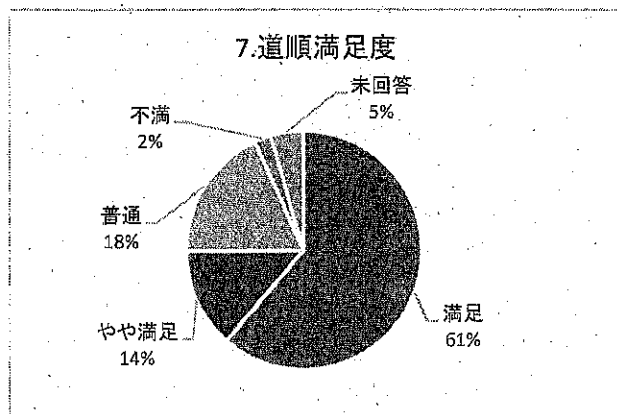
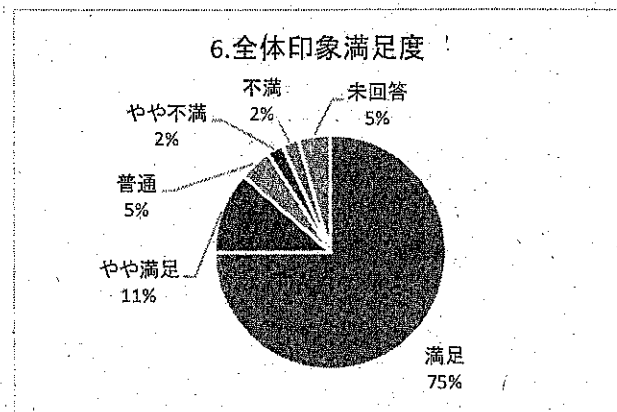
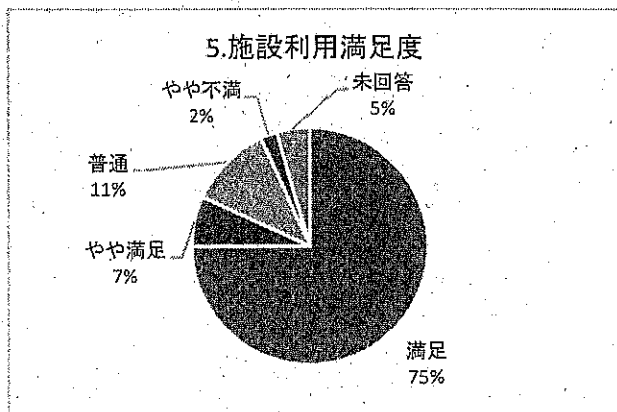
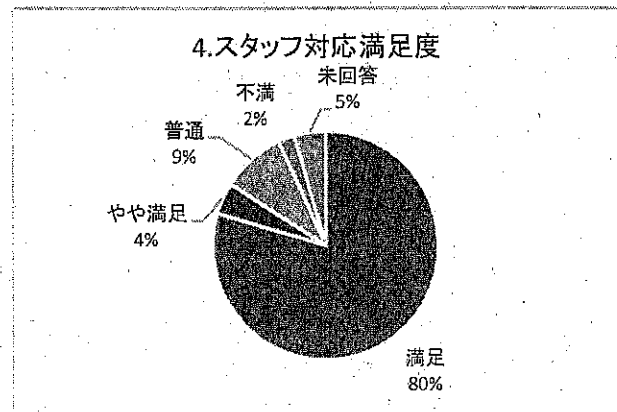
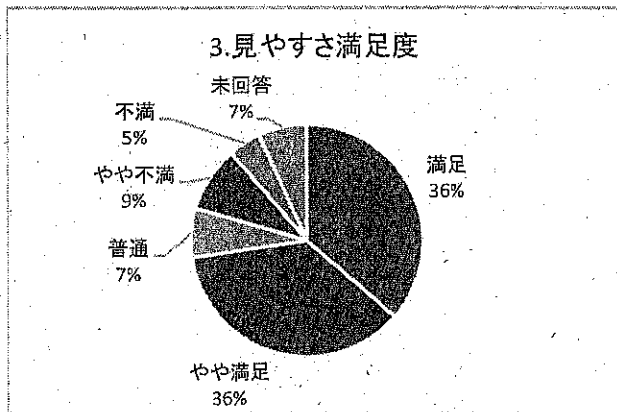
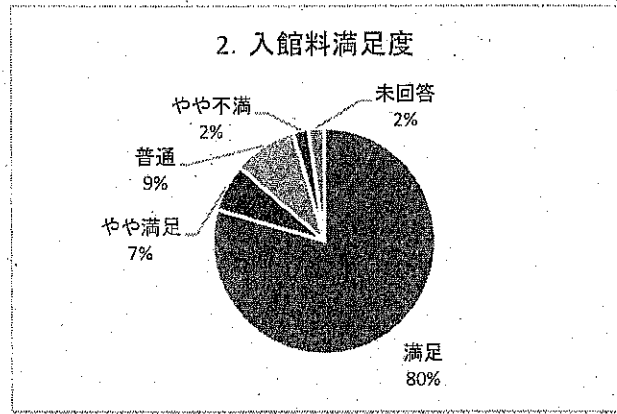
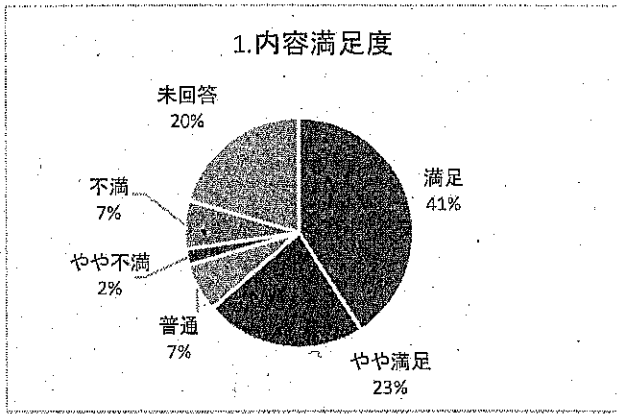
⑥来館回数



⑦展覧会を知った方法



⑧各種満足度



## 【展覧会内容】

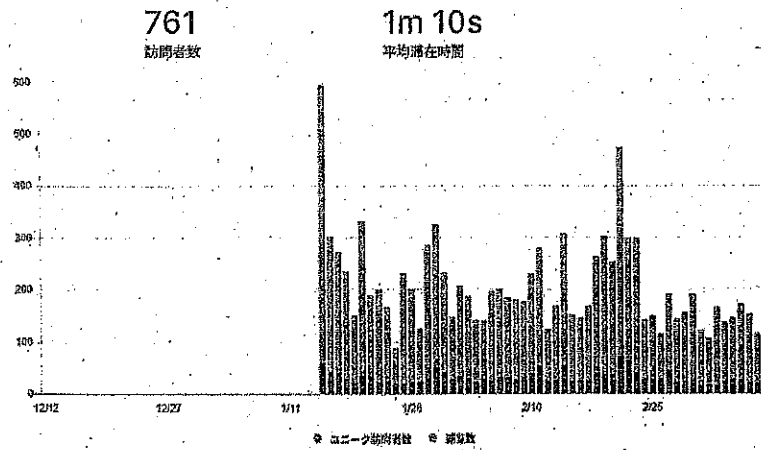
- ・震災の事改めて心に訴えかける映像や言葉、作品を見ることができてよかった。(40代・女性)
- ・絵画に音楽の組み合わせは面白かった。過去があるから今があることを思い出せた。(30代・男性)
- ・各展示のパンフレットが充実していてよかった。(30代・男性)
- ・いつもアーツ前橋の展示には、こんなものもあるんだ！と感心します。特に地元に関するものは興味深いです。私も今住んでいる街に帰って何かできないかと考えます…が何もできていません。がいつも種をもらって帰ります。(50代・女性)
- ・ヘッドホンで聞く鳥の声や水の音に癒された。聴覚だけで旅に出たような感覚が味わえることに驚いた。(20代・女性)
- ・音と絵のコラボや空間に音があふれているのは新鮮だった。(30代・女性)
- ・現代、過去、これからの混在が刺激的でした。対話型鑑賞に活用したいです。(50代・女性)
- ・ヘッドフォンを使って音を聞きながら絵画を楽しめたのが良かったです。(20代・女性)
- ・曲と絵画を同時に味わえるのは新鮮でよかった。(30代・女性)
- ・今度水戸芸で3.11び展覧会があるので瀬尾さん小森さんの作品を見に来た。久々に「砂粒をひろう」を見て、いろいろ思い出された。(50代・男性)
- ・聴きながら美術館を回るのは初めてで、とても面白かったです。(20代・女性)
- ・日常の音、自然の音、人工の音、各々違うが「音」という一つの 카테고리に入るところに「音」という言葉の広さと深さを感じた。(30代・女性)

## 【意見・自由記述】

- ・2度目だが、数を重ねるごとにわかる気がした。(50代・女性)
- ・小森+瀬尾、耳が聞こえにくいのでスピーカーから出る音やセリフを文字起こしたテキストを用意してほしい。(50代・男性)
- ・戦争や震災時のテーマが重すぎて体調が悪くなりました。その分心が動いたということですが、逃げ道みたいなものも作っていただけるとありがたいです。(音のしないスペース等心を落ち着かせるように)(20代・女性)
- ・私の不注意だがヘッドフォン持参のほうが良いというのは知らなかった。また一作品に鑑賞時間がかかるので時間の余裕があるときに再訪したい。(40代・男性)
- ・時間が長いのでどうしても映像を最後まで見られない。(20代・男性)
- ・QRコードが多すぎて数も多すぎて疲れてしまった。少ない数で(QRコードで)1分程度にまとまっていればサクサク聞けたかも。(30代・女性)
- ・作品は総じて良かったが時間がかかったので見切れなかった。(40代・男性)
- ・自由さを求めてかもしれないが、流れ、場所が少しわかりづらかった。(50代・男性)
- ・鑑賞の順路が分かりにくい。床面でもいいので増やすか目立たせてほしい。もう一度見たいものがあるときに戻りづらい。(50代・男性)
- ・もっとPRを。単なる美術館ではもったいない。(50代・男性)
- ・Wi-Fiがうまくつなげなれなかった。(30代・女性)
- ・郡響のコンサートの作品が印象に残った。(20代・女性)



※ Listening



ブラウザ	訪問者数	OS	訪問者数	デバイス	訪問者数
Chrome	380 47%	Android OS	289 38%	携帯電話	483 63%
iOS (webview)	126 17%	iOS	230 30%	ノートPC	179 24%
Chrome (webview)	69 9%	Mac OS	158 20%	デスクトップ	63 8%
iOS	43 6%	Windows 10	64 7%	タブレット	36 5%
Safari	35 5%	Windows 8.1	12 2%		
Firefox	31 4%	Windows 7	11 1%		
Instagram	28 4%	Linux	4 1%		
Edge (Chromium)	17 2%	Chrome OS	3 0%		
Facebook	14 2%	Windows Vista	1 0%		
Chrome (iOS)	12 2%	Windows XP	1 0%		

国名	訪問者数
日本	555
アメリカ	108
台湾	32
イギリス	20
韓国	18
ドイツ	4
中国	3
スペイン	2
スウェーデン	2
アイルランド	2
ブラジル	2
フランス	2
シンガポール	1
イタリア	1
カナダ	1
オーストラリア	1
香港	1
不明	8
合計	761

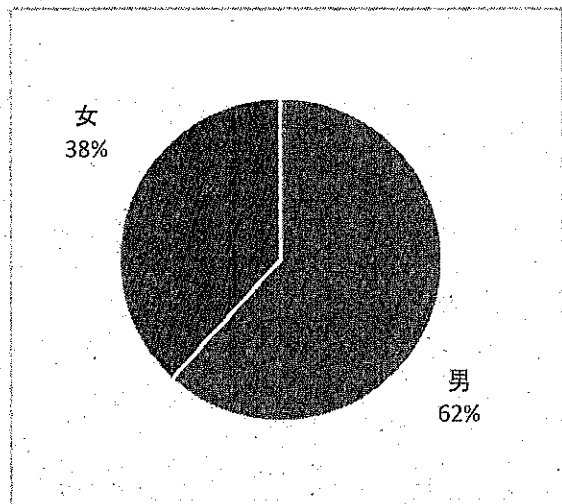
# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書

基本事項	事業名	場所の記憶 想起する力											
	会期	2020/10/22～2021/3/21 /124					開館日数	124 日間					
	会場(ギャラリー)	ギャラリー1、地下ギャラリー					実施方式	01自主企画・単独方式					
	観覧料	一般	-					出品点数	75点				
		割引	-										
	担当者	学芸:住友文彦、今井朋、井上康彦 事務:塚大輔											
	目的(一覧表)	アーツ前橋の位置する「場所」から始まり、地域アートプロジェクトを通じて生まれた作品やあたご資料館が所蔵していた資料などを通じて、前橋空襲など歴史的な時間の流れのなかで改めて芸術の役割を見直す。											
	キーワード	場所、戦争、歴史、近代化、時間											
	他団体との連携 (共催、協力等)	・旧あたご歴史資料館											
		・前橋市立図書館											
・県内コレクター													
参加作家	福田 貂太郎	水谷俊博建築設計事務所	木暮伸也	山口薫									
	津上みゆき	伊藤存	幸田千依	増田拓史									
	岩崎 孝	近藤嘉男	石内都	小見辰男									
	有村 真織	金子英彦	白川昌生	藤井光									
	中村一美	加藤アキラ	関根伸夫	菅木志雄									
	河口龍夫	長重之	草間彌生	照屋勇賢									
	ペ・ヨンファン	イルワン・アーム&ティタ・サリナ											
	関連イベント												
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録						
		-	-	インハウス	-								
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
		観覧料	助成金	他									
		予算	2,477,300 円	-	619 円								
決算見込		2,446,679 円		636 円									
差額	-30,621 円		-										
予算/決算		98.8%											
② 内容・活動	【②内容】 事業の概要	事業の概要(転記)	アーツ前橋の収蔵作品だけでなく、あたご歴史資料館や県内のコレクターの豊かな作品群を紹介する。										
		広報戦略・新たな試み(転記)	1.収蔵作品を新たなテーマ軸から作品を考える 2.同時開催の「聴く」展との関連のなかで県内の個人コレクションを見せる										
	【②活動】 主な取組(手段)の結果 メディア等広報実績 新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 アンケート	広報実績[新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	コレクション展であり、予算も限られることから紙媒体の広報物の作成は行わなかった。告知はHPやフェイスブックなどのネット媒体を中心に行った。SNSの利用としては、毎週1点の収蔵作品を選び、短い解説文と画像情報を発信し、より多くの人にコレクションについて知ってもらう機会をつくった。新聞には、開会後2回記事が掲載された(上毛新聞、読売新聞)。										
		新たな試みの実績	・予算および労力の省力化を図るため、ネットのみの広報を行った。 ・既に高い評価を受けている作家(草間彌生、中村一美など)の作品を美術館として収蔵することが既に難しい作品を県内のコレクターより寄託を受けることでコレクションの充実を図った。 ・東日本大震災に関わる収蔵作品を展示することにより、同時開催の「聴く」展との連続的なテーマ設定を行った。										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,847	31
	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項								
	一般指標	入場・参加者数	4,000 人	人	0.0 %	当初は1Fギャラリーで無料実施を想定							
	展覧会満足度	80 %	%	-80.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」とあった割合(無回答を除く)								

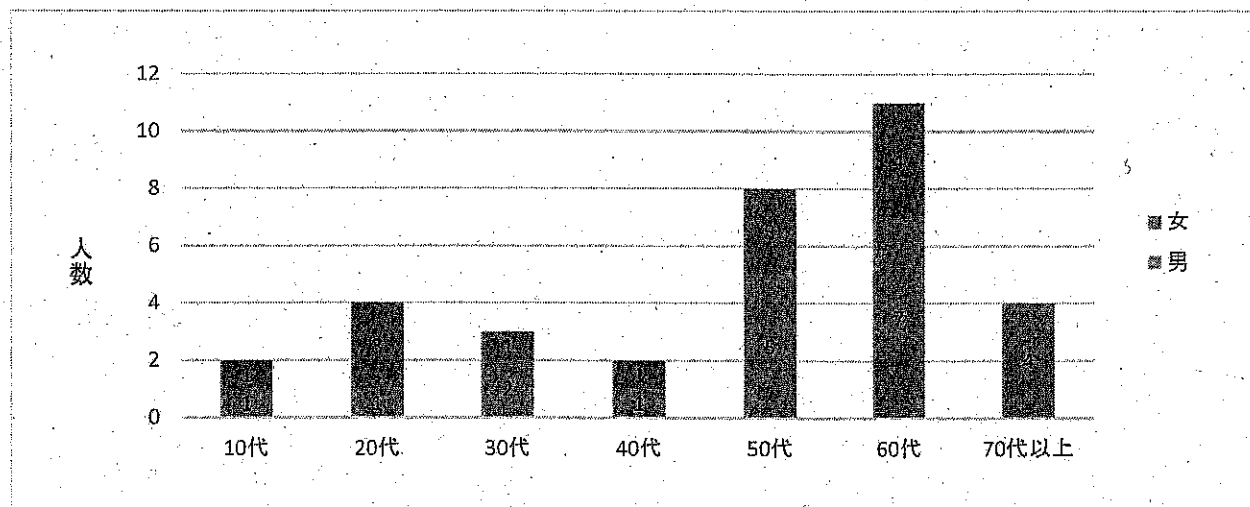
# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調査書

③ 結果	事業名	場所の記憶 想起する力			
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項( )			
④ 成果	④成果 一覧表の「目標」に対する結果 観覧者層のターゲット ねらい	観覧者層のターゲット(転)	近隣住民、市外の美術愛好家		
		成果	アンケートの途中集計結果によると、市内の観覧者が53%をしめ、ある程度近隣住民への情報周知はできたようだ。また、「来館回数」に注目すると、初めての来館者が26%いた点で、これまで美術館に足を運んだことのない人に展示をご覧いただけたようだ。		
		ねらい1 (転記)	1.コレクションへの理解が深まる		
		成果	アーツ前橋の収蔵作品だけでなく、あたご歴史資料館や県内のコレクターの豊かな作品群を紹介することで、収蔵作品を見せるための切り口を広げた。		
		ねらい2 (転記)	2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会		
		成果	山口薫のようなアーツ前橋開館以前から前橋市が収蔵していた作家とアーツ開館以降収蔵した津上みゆきや幸田千依などの作品を並列して展示することで、「場所」や「風景」を通じた近現代の作家の対話を見せることができた。		
ねらい3 (転記)	3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着				
成果	1階から地下1階のギャラリーまで無料設定とすることで、気軽に展覧会を楽しめるような場の設定を行った。アーツ前橋のコンバージョンの設計図やアーツ前橋の立地に関わる作品を並列することで、この場所の歴史への理解を促すことができた。				
⑤ 波及効果	個別評価	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価 ⇒ 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒ 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒ 前橋空襲の展示内容が引き金となり、市民学芸員が解説プログラムを自主的に行うなどの活動に繋がった。(2021.03.16記入) 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒ 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒アーツナビゲーター研修では、本展に展示された福田貂太郎《噴水》について、高齢者施設の利用者とプログラムを開催した。かつての前橋駅が描かれた作品であったことから、高齢者のための回想法にも繋がり、収蔵作品の新たな鑑賞方法を開発する機会になった。(2021.03.16記入) 《福島のため息》を制作したペ・ヨンファンより作品収蔵で得た金額を表現の森事業で継続的に協働をしているあかつきの村へ寄付が行われた。(2021.03.16記入)			
	※記入日を( )内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正				
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	課題・改善点	「糸の記憶」展の反省を生かし、紙媒体の広報は予算や労力の削減のために無くしたが、ポスターの掲示のみ会期の最初から行った。事業実施の広報は周辺地域などではできなかったのではないだろうか。ツイッターなどの反応を見る限り、「聴く」展と連動する形で、「場所の記憶」展についての感想などの反応も見受けられた。			
引継ぎ事項 (特記事項)	「糸の記憶」から引き続きの課題として、SNSを利用した収蔵作品の周知を考えていきたい。また、コロナ禍における事業変更の中で、収蔵作家の動画シリーズを制作していたため、そうした動画素材を利用した広報も考えられるのではないだろうか。				
コメント・意見	館長 副館長	滞在制作事業等、館外の事業によって制作された作品を活用したことで、アーツ前橋の活動を包括的に見せることができた点、あたご資料館や県内コレクターの寄託など地域の文化的リソースを活用できた点がよかった。今後、収蔵作品を展示する手法に活かしてほしい。			
	運営 評議会				

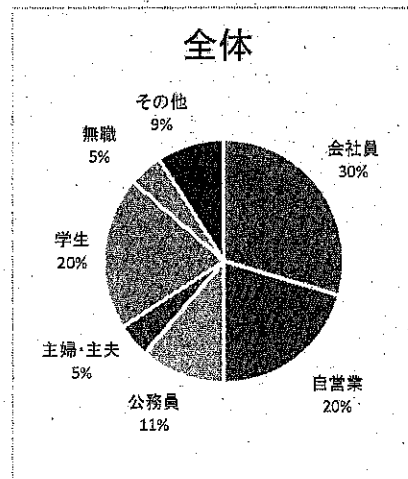
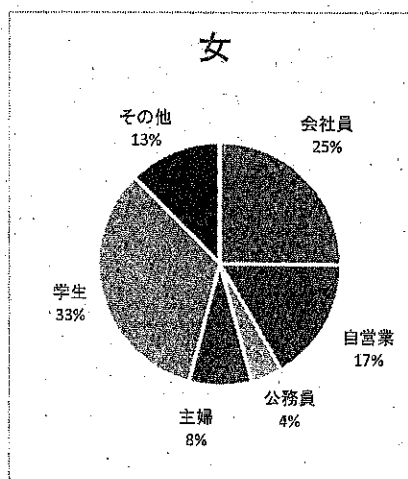
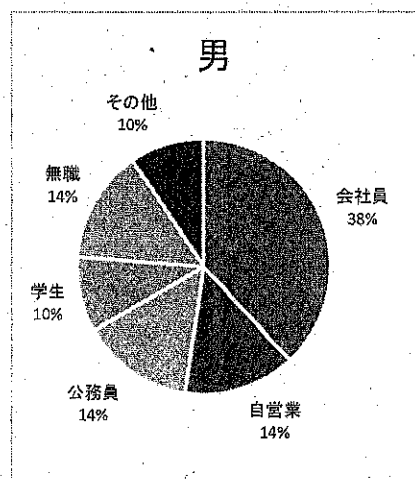
①アンケート回答数(34人・・・男21・女13)



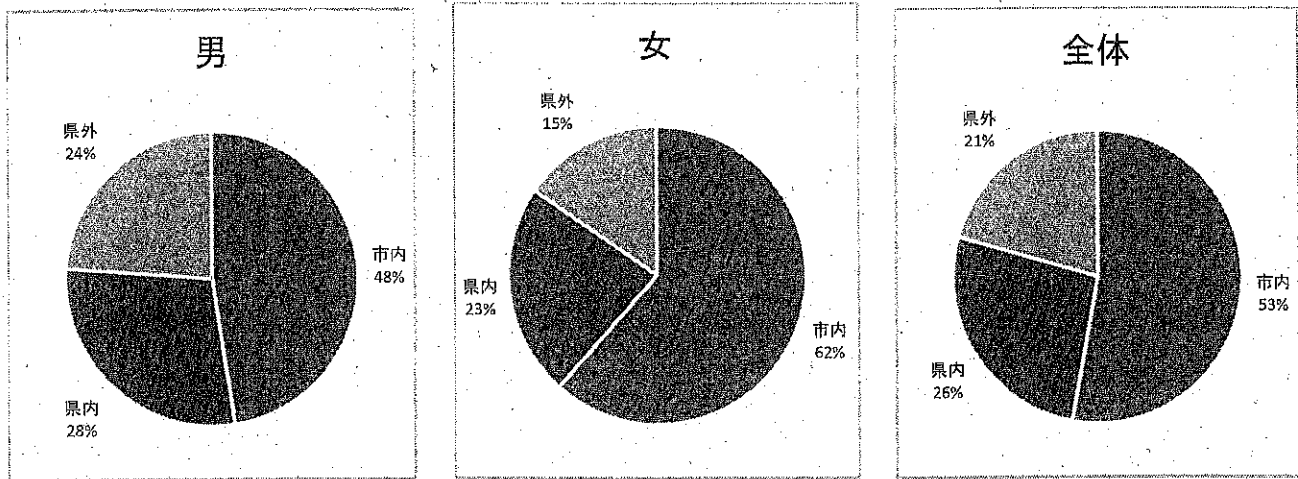
②年代



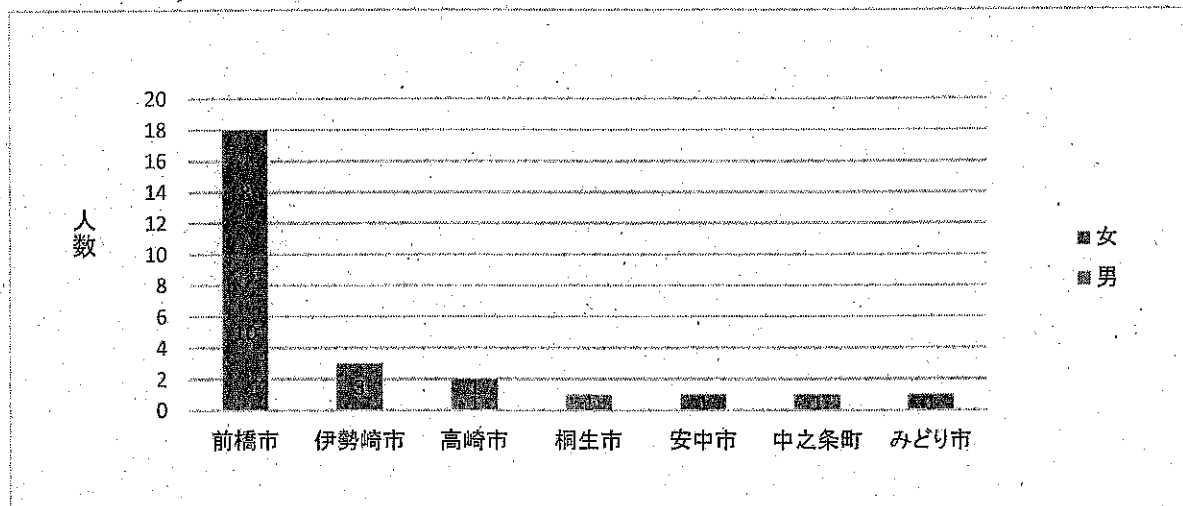
③職業



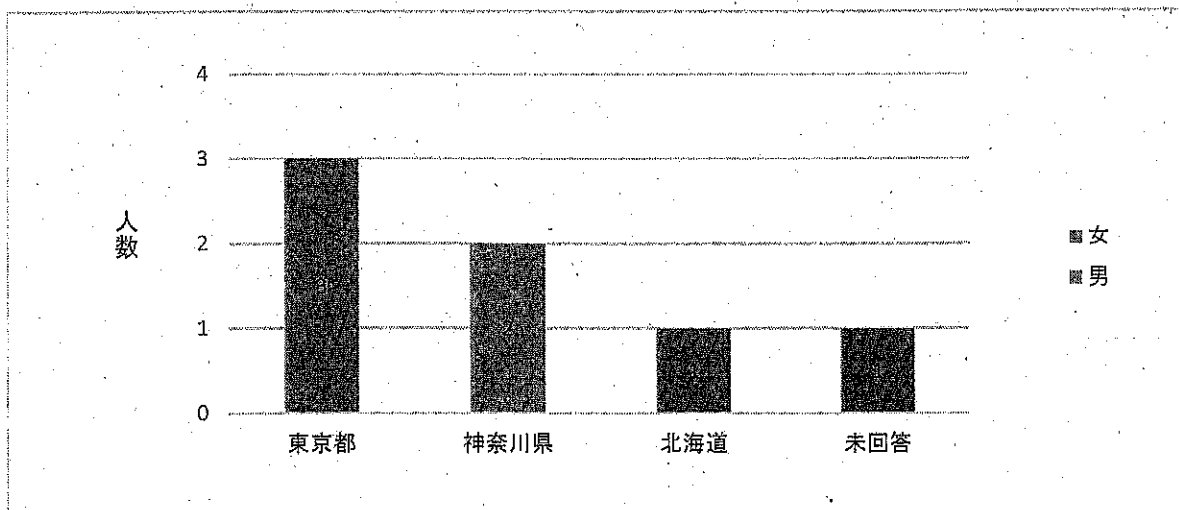
④-1住まい



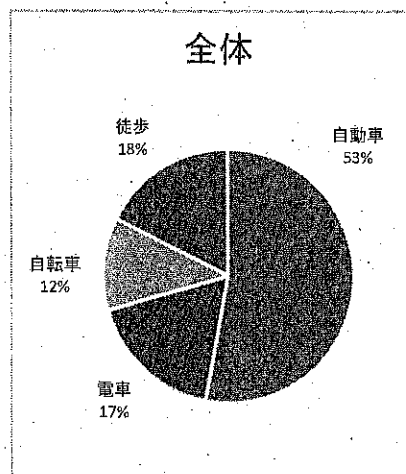
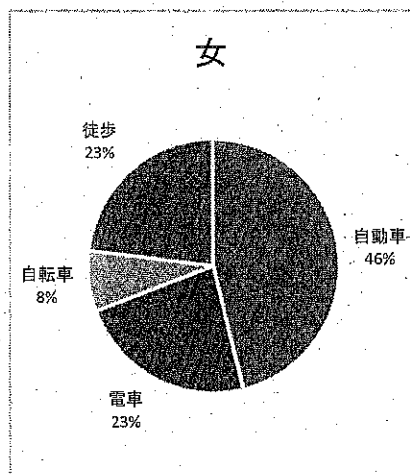
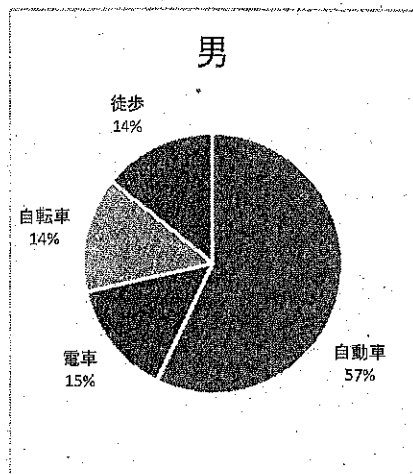
④-2住まい(群馬県内)



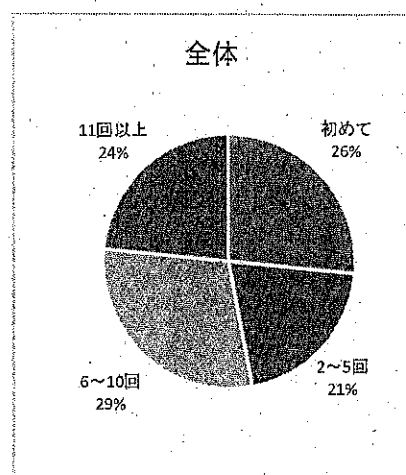
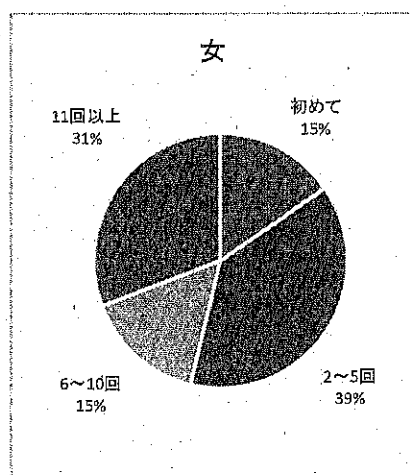
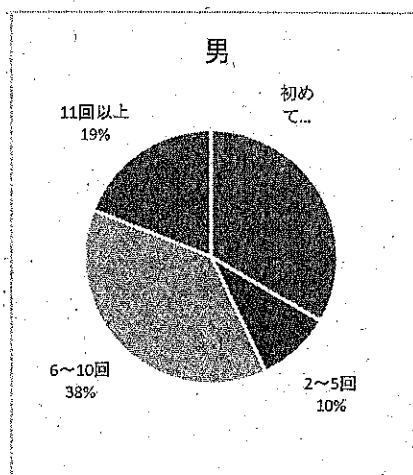
④-2住まい(群馬県外)



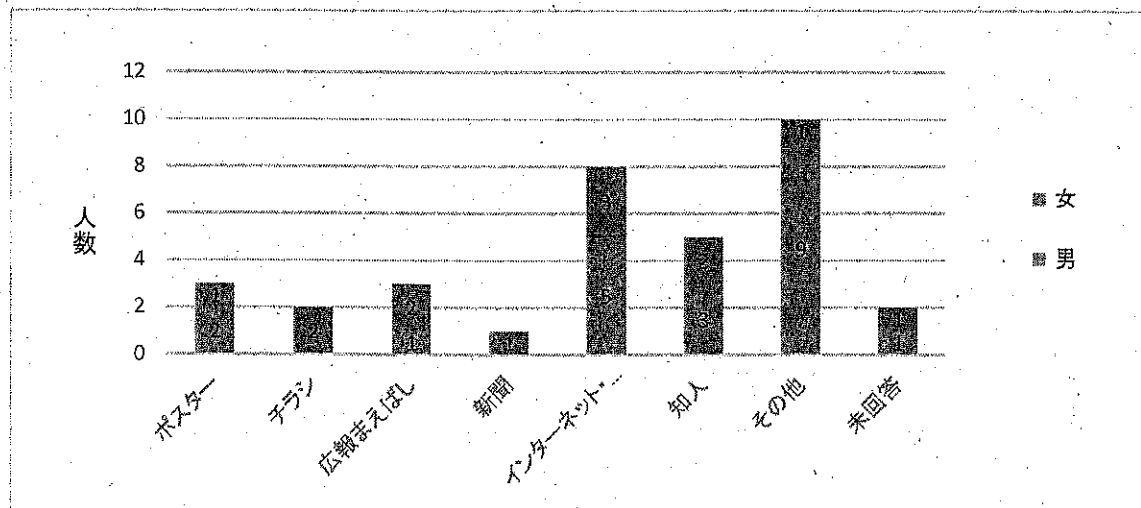
⑤交通手段



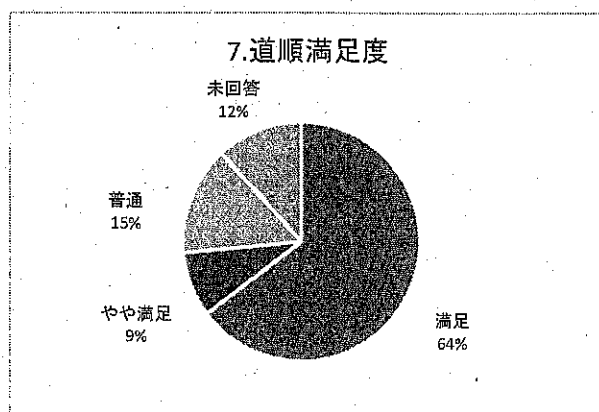
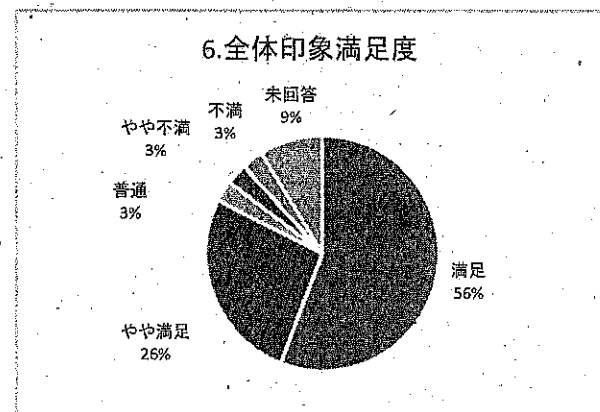
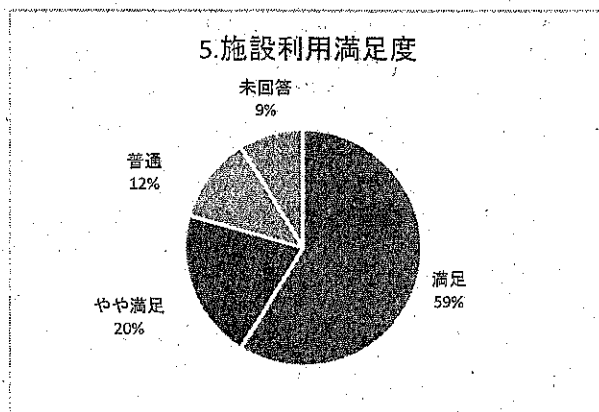
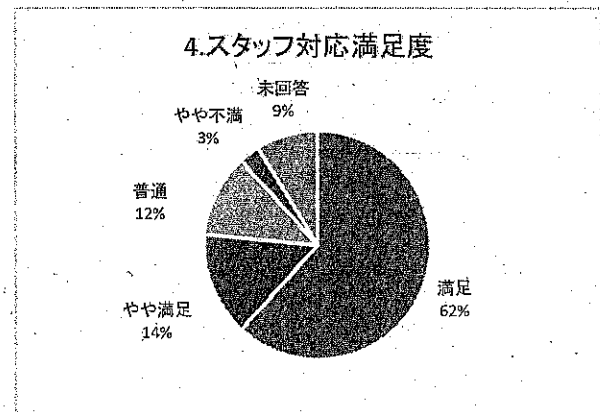
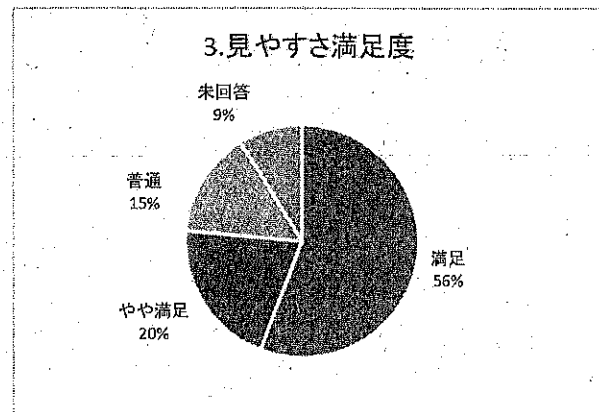
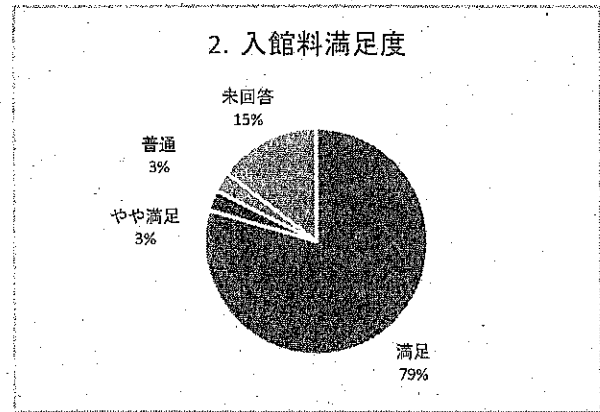
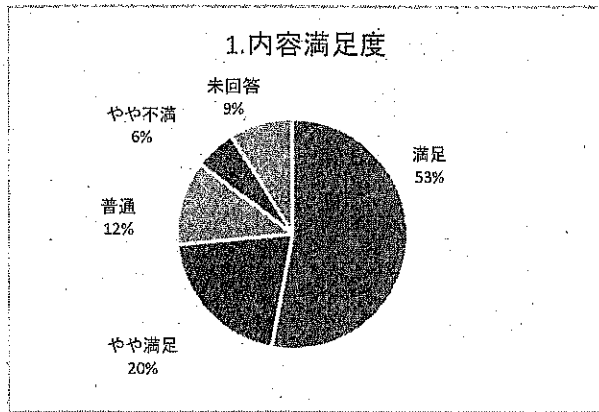
⑥来館回数



⑦展覧会を知った方法



⑧各種満足度



【展覧会内容】

- ・前橋の歴史を感じられる作品はよかった。(50代・男性)
- ・前橋空襲というアートと結びつけにくいテーマを取り上げていただき新たな発見がありました。(60代・男性)
- ・コンセプトドローイングは貴重だった(白川先生)。津上先生の木の作品の発想(30代・男性)
- ・前橋戦災の事。木馬DADADA、このような取り組みがあったことを初めて知りました。魅了されました。(20代・女性)
- ・空襲関係の資料、語りDVD、木馬祭、DADADA→ユニークです。こんな祭りを市内で時々催してください。(60代・男性)
- ・水面に映った風景を撮った作品が強く印象に残った。撮影データが知りたいです。(50代・男性)
- ・鈴木ひでさんの絵葉書で戦争当時の生活の大変さが良く分かった。(30代・男性)
- ・ヘッドフォンを使って音を聞きながら絵画を楽しめたのが良かったです。(20代・女性)
- ・金子英彦さんの絵が印象的でした。(10代・男性)
- ・県庁で高崎、前橋地団展を見てきました。空爆の中心地のこともわかりあたご資料館の資料もあわせて理解が深まりました。生糸のラベルのデザインも興味あります。今でも古臭く感じないところがすごい。(50代・女性)

【意見・自由記述】

- ・ほかの美術館よりも親切だった。旅行者としては地域の歴史や心にちなんだものを見られて有意義だった。(30代・男性)
- ・1人1人ユニフォームの着こなしが素敵です。黒と白のコントラストが綺麗です。たすき掛けが素敵です。(20代・女性)
- ・群馬でやっている意味のある展覧会をいつも開催していて、帰省すると必ずチェックしたくなる。(30代・女性)
- ・手を触れてはいけない、入ってはいけないところをもう少しわかりやすくしてほしい。(60代・女性)
- ・作品数がもう少しあるといいなと思いました。昔の前橋の事はもっと知りたいのでまたやってほしいです。(40代・女性)
- ・何度もアーツ前橋を伺っていますが、今回「コミッションワークの紹介」で初めて知った展示や説明を伺えてよかったです。展示物以外のものにも目を向けていきます。(20代・女性)
- ・コロナのためか見応えがイマイチ。白井屋ホテルもできたのでArtを盛り上げてもらいたい。(70代・男性)
- ・今回のような前橋の歴史に触れた作品はとてもいい。このような展示を増やしてほしい。(50代・男性)